

たしかに世界が変わった！という「できーくん」のとまと栽培事例

読者の皆様、いかがお過ごしでしょうか
新しい年2003年が幕を開けましたが本年も旧年に変わりませうご愛顧のほどお願い申し上げます。

さて、今月も「できーくん」の話題で恐縮ですが、岐阜県加茂郡坂祝町の兼松農園をお訪ねしました。兼松さんは15年前から「さか」プラント活用のとまと水耕に取り組んでおられるベテラン農家です。ご主人はJA職員として勤務され農場は奥さんの勝子さんが主体となって運営されておられます。

「できーくん」導入のきっかけは、昨年10月急な寒波来襲時のハウス温度管理が適切でなかったのかPHがどーんと下がると共に樹勢が悪くなり、対応をM式に相談したことに始まります。兼松さんは、それ以前から養液更新の重要性を苗場の管理から気づいておられ、現在設置されている6トントクを月1回程度更新する管理を展開されていました。植物の状態を見ながら週1回程度更新作業をやられていました。そんなわけで、「できーくん」の理論に同意され昨年11月始め設置されたものです。

導入から2.5ヶ月を経過したわけですが、導入前は植替えも決断しなければの状態でしたが、樹勢も回復し、玉伸びも順調で、現在は、11段目の花がきている状態、樹は3~4月の様子を見せている勢いで、その効用に驚かれています。導入後は、そのしくみにあわせた管理が必要と、ご主人のハウス通いの頻度が増加したとの事ですが、それらも落ち着いてきて、現在は気分的にも、実質的にも楽になったとおっしゃっていただきました。

ハウス面積は2,000㎡、播種8月、定植9月の長段栽培で、22~23段まで伸ばし7月まで収穫する年1作の作型です。ご好意で、階級比率のデータを開示していただきました。玉伸びの変化が明らかに見て取れますのでご紹介いたします。前

	3L	2L	L	M	S他
前作	4.7	16.8	23.9	34.4	20.2
今作	4.5	32.3	43.1	19.1	1.0

作は一昨年の10~12月の、今作は11~12月のものの出荷等級構成比率(%)です。M、S等級比率が少なくなり、2L、L

主体に変化しています。今までは、これだけの樹を作ると空洞化も多かったけれど、それが上記の状態ということで、今後がさらに楽しみ、もう少し欲をこめて3果/段から4果/段にも挑戦してみたいとのことでした。

収量増以外の効果としては、水温管理温度も2、ハウス管理温度も2 下げることができ、油代が確実に減った。養液更新量の増大に伴い肥料消費量の増大も懸念していたが、2週間持っていたものが、12日になった程度で、そんなに増えていない。収量増寄与から考えると変わらないとのこと。できーくん導入に伴い、自分にあった管理方法を、この短期間に見出されて成果をあげておられる兼松さんに敬服いたしました。悩みは、ハウス高さが3mと低いので写真のように、玉を地上に転がすような作り方になっている点を挙げておられましたが、ハウスのかさ上げなど対策を考えていきたいと明るく答えていただきました。今後の益々のご発展をお祈りいたしております。

(担当 川村庄一)

